

## 〔Ⅵ〕 ま と め 及 び 考 察

### 1－1. 主任講師の立場から

「地球と宇宙」主任講師 小 尾 信 彌

#### (1) 番組のねらい

「地球と宇宙」は2単位の科目で、自然系の基本科目の中に入っている。全体が15回で、そのうち「宇宙」に関する内容が6回分である。この講義を通して基礎のまた基礎になるような事項に焦点を絞ってまとめたつもりである。「宇宙」に関して全く関心のない人や予備知識のない人でも、「宇宙」というものを比較的わかり易いかたちで、目から「宇宙」に親しみ、かつ新しい宇宙観というものを理解してもらおうと考えた。

#### (2) 前提とした受講生

高等学校での勉強はもう以前のことであるとか、物理や地学を鮮明には覚えていない人々であろうということを前提とした。従って、20代後半もしくはそれ以上の方々が対象者であろうということにとらえていた。

#### (3) 15回のアンケートの正答率のバラツキについて

試験では、各回のテレビで講義したことで、印刷教材で各自が勉強したことをどのくらい理解しているかということを知りたくて問題を出した。試験で落第させるとか、何点までを目標にするとか、7割くらいの合格者を出そうということを意図したことはない。むしろ、試験には答えやすい形式の比較的ストレートな問題を出した。ひねくれたものや余り凝った問題は出していない。

#### (4) ファクシミリを利用した今回の試みについて

遠隔地でひとりで、勉強している方々は、どうしても不安や孤独感に陥りやすいと思う。例えば、自分が今やっている勉強方法でよいのであろうとか、テレビの講義をもう一度見直したり、印刷教材をよく読んでどうしてもわからないところがあるので、別の参考書はないだろうかというこ

とが考えられる。だから、今回の試みは、遠隔教育を進める場合とてもよいことであると思う。

ただ、それがうまく機能するためには、やはり放送大学本部なり、学習センターなりに、そうした受講生の要望にきちんと答えられるだけのチューターがいるといった配慮をしなければならないと思う。今回の諏訪地区の場合のように、受講者が30人未満ならばよいのだが、例えばこの「地球と宇宙」という科目のように、各学期毎に1,000人を越えるというケースでは、個々の対応が今の陣容ではできない。もっとも、こういう質問にはこう答えるといったような類型をつくることはできるかもしれない。しかし、質問する側は職業も、学習の程度も、年齢も、理解度もそれぞれ違うということであるから、その全てに仮に想定した質問や答えを用意することは少し無理であると思う。また、学習の方法などについてかなり個人的な質問をしたい方も多いと思う。従って、このような試みを本格的にやるには、かなり陣容を整えてからでないと中途半端に終わってしまうのではないかという気がしている。

#### (5) 番組制作のコツについて

私は長い間「通信高校講座」とか学校放送の番組などいろいろな種類の教育番組に関与してきたが、コツというものがあるかどうか分からない。私は私なりに良いと思った方法でやってきた。やはり、放送大学の場合は印刷教材の方にある程度のウェイトがある場合もあると思う。例えば、星の構造であるとか、宇宙の進化をとりあげるとすると、ある程度基本的なところから初めて、網羅的にいろいろなことを説明しなければならないが、テレビでの講義となると、43分程度の時間の枠内でとりあげる内容や分量には限度がある。だからあまり欲張らないでこれだけはどうしても直接口で説明したい、伝えたいという事柄を3つとか4つ程度重点的に絞って、これらの事柄について納得のいくように丁寧に話すというようにやるのがよいのではないかと考えている。これもあれも全部を少しずつ話すのではなくて、重要な事柄とか、活字で読んだだけでは理解しにくいような

点について丁寧に説明するというように作ったらよいのではないかと考えている。

(6) 受講生に望むこと

例えば、宇宙の化学組成などについては、水素が何％，ヘリウムが何％，マグネシウムが何％というような量的なものについては、テレビでパッと見てそれをノートに写し取るとか，口でいったことを速記のように書くことはできない。そういう定量的なことは，印刷教材にも載せてある。だから，受講生の方々はテレビの講義を見る前に，本当は一度印刷教材をさらっとでも読んで，それからテレビの講義を見る。更に講義が終わってからもう一度印刷教材を読む，というようにすると学習効果があがるのではないかと思う。

聞き手：浅 野 孝 夫